

全ての子供にミュージアム体験を 「Museum Start あいうえの」

アクティブ・ラーニングの環境を新たに整えることは容易ではなく、既にあるリソースを活用したほうが効果的だ。「Museum Start あいうえの」はそのモデルケースと言える。
文・矢島進二 日本デザイン振興会 理事



学校向けプログラム (2016年「ゴッホとゴーガン展」東京都美術館)

上野公園一帯は、美術館や博物館、図書館、音楽ホールなど、文化教育施設が9つも集結する世界でも稀なエリアだ。ここを舞台に、小学校から高校生までの子供達の「ミュージアム・デビュー」を応援するプロジェクトが、今年度グッドデザイン賞を受賞した「Museum Start あいうえの」だ。
館の種類も運営母体も異なる施設が垣根を超え、「ミュージアムでの特別な体験を全ての子供達に届けたい」と集結。プログラムは、初めてのミュージアム体験をワクワクさせる「デビュー応援」と「リピーター応援」の2段階を用意。本物

の作品に純粹に触れ、楽しみ方を実感してもらおう。そして、二度目以降は、何度でもミュージアムを楽しめる工夫が随所に用意されている。
東京都美術館と東京藝術大学のソーシャル・デザインプロジェクト「とびらプロジェクト」とも連動。どのプログラムでもアート・コミュニケータ(約140名)がファシリテータとなり、大人と子供の対話を育み探究的な学びをサポートする。
参加者全員に、プログラムの活用方法を丁寧に解説した「ミュージアム・スタート・バック」を無償でプレゼント。布製のバックにはガイドブックや冒険ノートが入り、



やじま・しんじ / 公益財団法人日本デザイン振興会 理事 事業部長。1962年東京生まれ。1991年に現財団に転職後、グッドデザイン賞を中心に多数のデザインプロモーションに従事。東海大学、九州大学、首都大学等で非常勤講師。

発見したことを自由に書き込める。
このように美術館などに行ったことがない家庭や、美術以外の学校の先生でも、安心して教えることができる仕組みやツールを用意し、ミュージアムだからこそ実現できる学びの形をデザインしている。 ■



ダイバーシティプログラム 美術館でポーズ! 撮影: Ayano SO



「Museum Start あいうえの」マップ

受賞者: 東京都美術館、東京藝術大学美術学部、アーツカウンシル東京

受賞カテゴリー: 一般・公共向け取り組み・活動

連携施設: 上野の森美術館、国立西洋美術館、東京都美術館、東京国立博物館、恩賜上野動物園、国立国会図書館国際子ども図書館、国立科学博物館、東京藝術大学、東京文化会館



ミュージアム・スタート・バック



冒険ノート